

寿楽つうしん

平成24年11月号

平成24年11月発行

発行 老人福祉センター菊名寿楽荘
発行責任者 富田 公道
横浜市港北区菊名3-10-20
TEL 045(433)1255

風をいたみ 岩うつ波の きのれのみ
くだけでものをおもふころかな 源重之

11月はさそり座

さそり座は10/24~11/22生まれの人です。

夏の宵の南の空低くに見える星座。真紅の1等星アンタレスを中心に十数個の明るい星がS字形の曲線を描き、東側の半身を濃い夏の天の川の中に横たえています。昔から黄道十二星座の第8星座(天蝸宮(てんかつきゅう))として重要視されてきました。全天有数の形の美しい星座で、かつては西隣のとんびん座もサソリのはさみの部分に含まれていました。ギリシア神話では、狩人(かりゆうど)オリオンが「この世に自分ほどの強者はいない」と豪語したため、女神ヘラがこの毒サソリを放ってオリオンを刺し殺させたという。このため、オリオンは星座になってからもさそり座を恐れ、さそり座が地平線に見えている間はけっして姿を見せないといえます。

[さそり座の性格] 蠍座の人は、友と競って出世を求めようなことはせず、幸福を待っては10年でも疲れを見せません。自ら友を求めて社交界に入りするなどということもなく、先方が来訪してきてはじめて友となる、強い心の構えのある人です。蠍座生まれの人の体力は充実しています。しかし、腕力や体力があっても闘いを好まず、そのかわり、もし闘えば一撃で相手を倒すような謀略をめぐらせます。



...ということですが、さて当たっていますか？

今月の和歌の解説

【通釈】風が激しくて、岩に打ち当たる波が(岩はびくともしないのに)自分だけ砕け散るように、(相手は平気なのに)私だけが心も砕けんばかりに物事を思い悩んでいるこの頃だなあ。

【補記】源重之(みなもとのしげゆき。生年不詳~1003年頃)清和天皇の曾孫(ひまご)で三十六歌仙の独りです。冷泉天皇の時代に活躍し、天皇の東宮時代に帯刀先生(たちはきのせんじょう)、即位後は右近将監から相模権守(さがみのごんのかみ)に出世しました。波と岩に託しておのれの激情を語る鮮烈なイメージの一首です。普通砕けてしまうのは、女性の心と思いがちですが、ここで千々に思い悩むのは男性の方でした。実は「砕けてものを思ふころかな」は、平安時代の歌によく使われる恋の悩みの表現です。ある種ありきたり、とも言えるのですが、そこに序詞で嵐の海の情景を詠み込んだことで、陳腐な恋の言葉が劇的な名歌に姿を変えてしまいました。この辺りが、名手と言われる詠み手の凄さでしょうか。さかまく波に寄せて激しい情念を歌い込んだ印象の強い一首。ぜひあなたもその情景を心に思い描いてみてください。

「咳エチケット」の普及啓発

—インフルエンザ予防のために—

他の人への感染拡大の防止のため、「咳エチケット」をキーワードとした普及啓発活動を実施、マスクの着用や人混みにおいて咳をする際の注意点について皆さんにお願いします。

○咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。

○鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。

○咳をしている人にマスクの着用をお願いします。※咳エチケット用のマスクは、薬局やコンビニエンスストア等で市販されている不織布(ふしょくふ)製マスクの使用が推奨されます。N95マスク等の、より密閉性の高いマスクは適していません。※一方、マスクを着用しているからといって、ウイルスの吸入を完全に予防できるわけではありません。※マスクの装着は、説明書をよく読んで、正しく着用しましょう。



11月のスケジュール



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				横浜郷土史 健康体操	英会話 水彩画	
4	5	6	7	8	9	10
卓球開放	太極拳	古城と古寺散策	椅子に座って エクササイズ	歌声教室 健康体操	英会話 編物教室 健康麻雀	初めての書道
11	12	13	14	15	16	17
卓球開放	バードカーピング		ウクレレ教室 健康相談	横浜郷土史 健康体操	英会話 水彩画	
18	19	20	21	22	23	24
卓球開放	太極拳	古城と古寺散策	椅子に座って エクササイズ 栄養相談	歌声教室 健康体操	編物教室 健康麻雀	初めての書道
25	26	27	28	29	30	
卓球開放	バードカーピング	休館日	ウクレレ教室 健康相談			

干し柿文化圏

干し柿に用いられる柿は、そのままでは食べられない渋柿であり、乾燥させることにより、渋柿の可溶性のタンニン(カキタンニン、シブオール)が不溶性に変わって(渋抜きがされて)渋味がなくなり、甘味が強く感じられるようになります(その甘さは砂糖の約1.5倍とも言われます)。乾燥させずに生食される甘柿とは風味や食感が大幅に異なるため、甘柿が苦手でも干し柿は平気で食べる人もいます。干し柿は日本、朝鮮半島、中国、台湾などで作られていますが、これらの国の間に現在タンニンのような渋味があふれているのは不幸なことで、国家間の渋抜きがされて、干し柿以上に甘い関係が熟成され、各国が自国の干し柿自慢に花を咲かせることができる時代が早く来てほしいと思います。



趣味の教室 短期講座のご案内

講座名: わくわくクラフトクッキング
 テーマ: フード・クレイ手作り
 開講日: 11月30日(金)10:00~12:00
 講習料: 無料(但し材料費1,500円)
 募集: 11月5日(月)~(先着20名)



[編集後記]



11月の花に山茶花(サザンカ)がありますが、なぜ山茶花と書いて、(サザンカ)と読むのでしょうか? もともと山茶花とは漢名(中国)でツバキのことを指します。それを日本人はツバキとサザンカを勘違いし山茶花を「サンサカ」と読みました。そのなまりが山茶花(サンサカ)→茶山花(ササンカ)→山茶花(サザンカ)と変化していった説が有力です。原産地は日本なんですけどね。

これらの読みに関連したものには「独壇場(どくだんじょう)」は「独擅場(どくせんじょう)」の誤読から変化し、漢字もそのまま「擅(せん)」から「壇(だん)」に。「眞子(まこ)の手」の誤読が「まごの手」に、やがて漢字も「孫の手」に。もともとは「しだらない」が「だらしない」に変化し「しだらない」の「しだら」は「ふしだら」の「しだら」古くは「ころぶと」、漢字で書くと「心太」平安時代に「太」を誤って「天」と書いた辞書が出され「心天」に。これから、「ころてん」や「ころてい」と誤読され、さらに「ところてん」と変化、しかし、後に漢字の誤りが正されて、もとの「心太」に戻る。ところが、読みは変化したまま使われて、その結果、現在では「ところてん(心太)」漢字と読みのダブルの間違い!となりました。いやはや、日本語って難しいですね。